

Business Topics

不振ノキアも放置 企業倒産が当たり前の北欧

「ポストノキアを探せ」――。

いま北欧・フィンランドで流行している言葉である。海外での活動が盛んなものの、ピーク時にはフィンランドのGDPの20%を超える売上高を誇り、関連産業も含めて同国の経済を支え続けてきたノキアが、業績不振に陥っている。だが、「シャー

プやパナソニックに公的資金を注入すべき」という声の聞かれる日本と異なり、同国で「ノキアを救済しよう」という声はほとんど聞かれない。

「我が国では競争力を失った企業への支援は行いません。税金はこれから伸びる企業のために使います」

(駐日フィンランド大使館で経済・通商を担当するユッカ・パヤリネン1等書記官)

実際、昨年フィンランドでは約3000社が倒産しており、約1万2000社が倒産した日本の4分の1程度の規模だ。企業数が日本の8分の1程度であることを勘案すると、倒産率の高さが窺える。

「ノキアからの転職者ですか？」

珍しくないですよ。正確な数は分かりませんが社員の1割ぐらいはいる

と思います」(ゲーム「アングリー

バード」を展開するロビオ・エンターテイメントのアンティ・ソニネ日本事務所代表)

「ムーミン」を超えた「アングリーバード」

ロビオはフィンランドで最も勢いのある企業のひとつで、「アングリーバード」は日本でこそ馴染みが薄いものの、世界約100カ国のアッブストア(アップルのアプリ販売サイト)で1位を獲得し、累計17億を超えるダウンロード数を誇る。お化けアプリだ。

フィンランドと言えば、「ムーミン」が有名だが、同国での「アングリーバード」の人気は、「既にムーミンを超えている」(フィンランド在住日本人)そうだ。東京にある同国大使館の玄関には、長らく同国の顔として「ムーミン」の人形が置かれていたが、最近「アングリーバード」に置き換えられた。

注目すべきは、「ノキアで働いていた社員が会社の発展に役立っている」というアンティ代表の話だ。フ

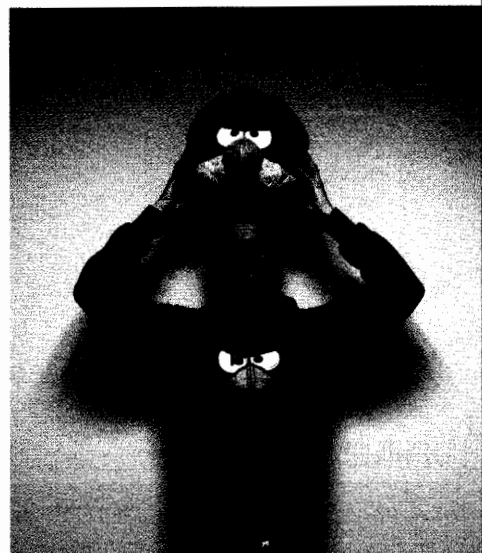
インランドは雇用の流動性が高い。競争力のなくなつた産業から、競争力のある成長産業へ人が移り企業の発展に役立っている例が多いそうだ。

競争力のある企業を育てるには、起業を促し、育成するシステムが必要だ。18〜64歳までの人口に占める起業活動を行っている者の割合(2011年)は、日本5・2%に対して、フィンランドは6・3%。だが、ポイントはその点ではなく、

「ベンチャー企業を育成する公的機関や民間ファンドが充実している」(ジェトロ海外調査部・岩井晴美アドバイザー)ことだ。なかでも産業創出、育成を担うテケス(フィンランド技術庁)は海外にもその名を轟かせている。

テケスは「企業ごと」でなく、「プロジェクトごと」に厳しく審査した上で、助成金を出す。ビジネスや金融のエキスパートを採用し、日本人を含めて外国人も在籍する。

こうした「目利き」が厳しい審査



を行い、個々の企業にあつたアドバイスをする。ことで、企業の成長が促進されるという仕組みだ。テケスの情報は徹底的にオープンにされ、外部から厳しい評価にさらされる点も成功要因のひとつと言われている。ロビオもいくつかのプロジェクトでテケスの力を借りた。

社会保障が充実し、倒産や解雇があっても、食い扶持には困らないといった背景もあるが、世界競争力ランキング(世界経済フォーラム、2012年)で3位(日本は10位)と世界屈指の競争力を誇るフィンランドの「仕組み」に、日本が学ぶことも多いのではなからうか。